

結月悠は初心で乙女な
ちよろカワうさぎだぴょん♪

【悠】

「はぁぁぁ……やっつと学園終わったぁぁぁ……」

【悠】

「いやぁ、やっぱ一日中勉強とか地獄だわ……せめて体育とか美術とか、何かサブ教科みたいなのがあればよかったんだけど、今日は何もなかったし……はぁぁぁ、ほんと無理……マジで無理……」

【悠】

「つてか、あんたは毎日ウチとか別のバイトしてて、それでもって勉強まで頑張ってる……滅茶苦茶忙しいのに何でそんな余裕そうなの？ パワフルすぎて引くわ……」

【悠】

「あーもうダメ。無理。マジで無理だから。明日は土曜で忙しいってのに、今からこんな疲れてたら倒れちゃうかも……あぁぁぁ、ほんとこのまま歩いてたらアタシこの場で倒れこんじゃうかも……」

【悠】

「ん……ちら……ちらちら……」

【悠】

「……はぁぁぁ、まったく、キョトンとした顔しちゃって……あんたに期待したアタシが馬鹿みたいじゃない」

【悠】

「大事な恋人が歩き疲れたって言うてるんだからね？ ほら、する事があるでしょ？ フツー」

【悠】「いや、喫茶店で休むとかじゃなくって……んゝゝ！ もうゝゝ！ うううう、えいっ……！」

【悠】「くうう……自分から腕に抱き着くとか、すっごく恥ずかしいいゝゝ……！」

【悠】「ほんととはあんたから腕組して欲しかったのに……バカあ……！」

【悠】「んな、な、何よその目は！ そんな小動物を見るような目をしてえ！ って、ああっ！ 悠ちゃん可愛いっていうなあ……！」

【悠】「むうゝ、そもそもせっかく恋人とゝ人つきりなんだから、アタシがおねだりする前に手繋ぐとか腕組むとか、気をきかせなさいよね、もう……！」

【悠】「……って、あつ、これ、指……恋人繋ぎ……ん、えへへ♪ なによ、分かってんじゃん♪ ……ん、もうちよつと強く握って？ アタシの指、離さない様に、ね？」

【悠】「はふう♪ あったかい♪ まあさっきのと差し引きでギリギリ合格点ってとこかな……んへへ♪」

【悠】「はああゝ♪ こうやってあんたとくっついて歩くのめっちゃ好きだわ……安心する♪」

【悠】

「指と指の間からあんたの熱が伝わってきて……あはは♪ 段々ぬめぬめしてきた♪ 緊張して汗かいちゃってんの？ 付き合ってそこそこたってるのに？」

【悠】

「ほんと見かけによらずウブだな～♪ まあ知ってたけど♪ ん？ 別に嫌って訳じゃないよ？ むしろ今でもこんな可愛い反応してくれるなんて逆に嬉しいくらい♪」

【悠】

「もっと手、ぎゅうううってしてあげる♪ ほら、ぎゅッ、ぎゅうううう♪ ついでにおっぱいも、むにゅうううう♪」

【悠】

「あはは♪ 顔真っ赤にして恥ずかしがっちゃって♪ アタシに恥をかかせたお返しなんだから、しっかりおっぱい堪能して恥ずかしがってよね！」

【悠】

「ほら、あんたの大好きな恋人おっぱいだよ～♪ 最近一杯揉まれて大きくなった悠ちゃんおっぱい♪ そ～れ、むにゅむにゅ♪ むにゅむにゅ♪」

【悠】

「って、ヤバ。ここ外なのに調子に乗りすぎた……とりあえずほら、このまま帰ろ♪」

【悠】

「ひゃうう……風ちべたっ……もうすっかり寒くなっちゃって……生足女子には厳しい季節だわ……」

【悠】「まあどれだけ寒くてもミニスは止めないけどね。え？　当たり前じゃん。今が人生で一番オシヤレが楽しい時期なんだよ？」

【悠】「春や夏で着れないセーターやコート、それにマフラーとか手袋、ソックスにブーツ。若い内にしか着れない可愛い服がいっぱいなんだから！」

【悠】「だから今の内にいっぱいオシヤレな服着て楽しんでおくの！　その為なら寒さなんて些細な問題だし。オシヤレは気合！　これ常識！」

【悠】「ん、そ、それにね？　あんたの前ではいつでも一番可愛くいたいって思うし……って、わっ！　わあああ！！　ヤバっ！！　めっちゃ変な事言っちゃった！　無し！　今の無しい！！！」

【悠】「え？　あ、いや、べ、別に嘘じゃないけど……あんたに可愛いつて思われたってのはほんとの事だし……」

【悠】「だって！　私、彼女だもん……あんたが自慢できるような可愛い彼女でいたいって思うのは当たり前じゃん……あんたの事、好きだもん……」

【悠】「ん？　あ、あれ？　急に立ち止まって……っ！　きやあっ！？」

【悠】「わっ！　ちよっ！　あんたこんな、通学路で何して！？　わわっ！　ちよっ！　えっ！？」

【悠】

「んむう！ んんっ！ ちゅっ！ ぷちゅっ！ んんっ！ んんっ！ ちゅっ！ ちゅぷっ……ちゅっ、ちゅっ……はむちゅっ♪ ちゅっ、れるっ……ちゅ♪」

【悠】

「んちゅ♪ ちゅ、あむ、ちゅ♪ ちゅぷっ、れるっ、ちゅ♪ ちゅぱっ……ぴちゅっ、くちゅっ……ちゅっ、れろ……れろれろ……ちゅぷっ、くちゅっ♪」

【悠】

「んちゅ……ちゅっ、んん、ちゅぱっ！ はあ、はあ、はあ……んもう、ばかあ……♪ こんな誰が来るかも分かんないところで、キ、キス！ なんてえ……♪」

【悠】

「あ、ダメ……やめないで……別にキスが嫌って訳じゃないし、ここ、今は誰もいないし……だから、その、ね？ もう少しだけ、キス、したい……っていうか、ね？ キス、して？」

【悠】

「ん……ちゅ、ちゅっ、ちゅ♪ ちゅぷっ……もつと……ん、れるっ、くちゅぴちゅっ……ちゅっ……んちゅっ……れろっ……れろれろっ……んちゅっ……ちゅぱっ……んっ……れるっ……くちゅ……」

【悠】

「ん、ちゅっ♪ れちゅっ……ちゅっ、ちゅぷっ……ちゅ、れろっ……はぶ、ん、ちゅっ……んちゅっ……れろっ、んぷっ……ちゅっちゅっ、ちゅぷっ……れろっ、んちゅっ、れろっ……ちゅぷっ」

【悠】

「ん……好き……好き、大好き……れちゅっ……れろ……れろれろっ……ちゅっ……くちゅっ……じゅるっ……ちゅっ……ちゅぱっ……はあ……はあ♪」

【悠】

「ああ、ヤバイ。ヤバイヤバイ。すっごくヤバイこれ。抱きしめられながらキスう♪ 幸せが溢れすぎて胸キュン止まんない♪」

【悠】

「ほんといつまで経っても慣れないわ。よく付き合って数日でドキドキしなくなるとか聞くけど絶対嘘だよね」

【悠】

「だってアタシ達もう付き合って結構経ってるのに、デートとか、そ、それに、エッチする度にドキドキしっぱなしだし……」

【悠】

「ほら、あんただってドキドキしてる。あはは♪ こんだけ抱き合ってたらバレバレだし♪」

【悠】

「うん、お互い様だね。ほんと恥ずかしいくらい一緒。お似合いって奴だわこれ」

【悠】「ああ、好き……大好き♪ んん♪ もっと強くぎゅってして」

【悠】「んん♪ あはは♪ ちょっと汗の匂いがする♪ すん、すんすん……はあゝ♪ あんたの匂い……あんたの香り……」

【悠】「これ、絶対アタシにだけ効く変なフェロモン出るよね。だっておかしいもん。汗の匂い嗅ぐだけでこんな幸せな気分になるなんて……」

【悠】「サバゲーで男共のむさ苦しい匂いは嗅いできたけど、それとは全く別物……はあゝ♪ ずっと嗅いでられるわゝ」

【悠】「ん、あ、ちょっと！ そんな首筋に近づいて……きやつ！ あんっ！ やだ、首筋の匂い嗅ぐなああ」

【悠】「ん、んんっ！ ああんもう……髪撫でながらなんて、はうう……悔しいけど気持ちいい♪ あっ、ちょ！？ 首にキスう……♪」

【悠】「うわ、ぺろぺろまで！？ やあ！ 舌くすぐったいってばあ！ んもう、何か今のあんた、近所の甘えてくるワンちゃんみたい♪」

【悠】「ほらもういいでしょ？ これ以上したら我慢できなくなっちゃうから！ ほゝら、はゝなくせゝゝ！」

【悠】

「はあ、はあ……ふう〜これキスマークとか出来てないよね？ もし付いてたら明日の仕事できなくなっちゃう……」

【悠】

「まあエッチの時と違って甘々キスだったから大丈夫だと思うけど……」

【悠】

「はあ、ほんと、あんたもアタシも一度スイッチ入っちゃうと歯止めがきかなくなるのは悪いクセよね」

【悠】

「アタシも何だかんだあんたの変態趣味に付き合っちゃってるとこあるし……この前だって、目の前でオナニーさせられて……ううう、今思い返してもヤバイ、ハズイ……」

【悠】

「と、とにかく！　せめて仕事に支障が出ない程度には自制していかないと、いつかすっごい恥ずかしい事になりそうだしね！　万が一親父にバレてしたら絶対に引きこもる自信あるし！」

【悠】

「ってことで、明日は朝からウチでバイトだけど、営業中はエッチな事禁止だからね？　絶対だからね？」

【悠】

「あ、これフリとかじゃないから。前みたいにバーカウンターでエッチな事し始めたら許さないから」

【悠】「って、ええ……そんな露骨にテンション下げられると何かアタシが悪い事したみたいで嫌なんだけど……」

【悠】「別に営業中はエッチダメってだけで、そ、その……仕事終わりとかお休みの日とかは、エ、エッチな事いっぱいしてあげるから……」

【悠】「今だって抱き合いながらおっぱい押し付けてあげてるでしょ？ ほら、元気出してってば」

【悠】「それでもダメなんて……んもう、仕方ないなあ……」

【悠】「今度エッチする時はあんたの好きな恰好でエッチしてあげるから、今は我慢して、いっぱいエッチ出来るように、ここ♪溜めておいて？」

【悠】「私だってあんたとエッチしたいの我慢してるんだから。一緒に我慢して、次は最高に気持ちいいエッチにしよう？ ね？」

【悠】「って、わわ！ すっご。急に元気になっちゃった……ほんと単純バカで可愛いんだから♪」

【悠】「ん、じゃあほら♪ 誰か来る前にさっさと帰ろ」

【悠】「もちろん、腕組みでね♪ あ、恋人繋ぎも絶対だから！」

【悠】

「ふう……開店作業はこんなもんかな」

【悠】

「ねえ、そっちはどう？ 終わった？」

【悠】

「そっか。じゃあこれでいつでもオープンできるね」

【悠】

「あんたが早めに来てくれたから少し時間余っちゃった。えへへ♪ これならゆっくりできるかも」

【悠】

「あー……どうせならさ、せっかく2人っきりの時間ができたわけだし、そのう……ちよつとそっち行ってもいい？」

【悠】

「……って、な、なによその顔は？」

【悠】

「……悠ちゃんのおねだりが可愛い……って！ バカ！ バカバカ！」

【悠】

「べ、別にいいじゃない！ だってあんたってば、最近のアタシのお店そっちのけで日雇いバイトばっかだったし、こうやってお店で2人っきりになるの久しぶりなんだもん！」

【悠】

「あんただってアタシと早く会いたいからこんな朝早くに来てくれたんでしょ？ 彼女なんだからそれくらい分かるっての！」

【悠】「だから、変に茶化したりしないで素直に言うこと聞いてればいいのよ！……んっ、それ！」

【悠】「はぁ~~~~ん、んんん~~~~っ♪ 毎日会ってるはずなのに、少し離れただけでこんなに寂しく感じるなんて……ヤバイ、アタシあんたにハマりすぎかもしれない」

【悠】「すう~~~~、はぁ~~~~……ああんもう、あったかい……んっ、やっぱこれ好き……胸の奥がキュンっとして嬉しくなっちゃう……」

【悠】「どう？ あんたもアタシに抱き着かれて嬉しいんじゃない？」

【悠】「あは♪ 顔すっごいゆるんじやっ♪ 分かりやすすぎ♪」

【悠】「そんなに嬉しかったんなら、もっとサービスしてあげちゃおっかな♪」

【悠】「ほくら！ うりうり~~~~♪」

【悠】「あははは♪ どう？ どう？ 彼女に思いっきり抱き着かれてうりうりされるの、最高でしょ♪」

【悠】「こーやってアタシの香りと感触を刷り込んでおけば寂しくないでしょ？ それにあんたはアタシの物ってマーキングしとかなきゃだし」

【悠】「ふえ？ ん、いや、まあ今更アタシの事ほっぱり出してどっか行っちゃうとは思ってないけど、念のためね」

【悠】「ほら、あんたって顔は結構厳しくて怖いから初対面の人には印象よくないかもしれないけどさ。あんたにはあんたのいい所がいっぱいあって、いつかその事に気が付いてくれる人がきつと出てくるはずだから……」

【悠】「だから、そ、そのう……今の内に変な女が寄ってこないように、こう、マーキングしておこうかな、なんて……って、んむっ!？」

【悠】「んっ、う……むうう、ん、ちゅっ……んん、ふ、う、ちゅっ……んんうっ……」

【悠】「んん……ちゅっ、ちゅぷっ……ふ、う、んんっ、ちゅっ、んむうう……ちゅ、ちゅぱっ」

【悠】「はあ、はあ……ちよっと、い、いきなりキスう……ううう……恥ずかしいじゃない……ばかあ♪」

【悠】「いや、まあ、その、ね？ 別にキスは嫌いじゃないし、むしろ好きだからもっとしてっていうか……」

【悠】「ううう……ね、ねえ……開店までまだ時間あるし、その……もっと、ね……?」

【悠】「ん、ちゅっ……ちゅぷっ……んっ、う……ふあむっ……んん、う、ちゅっ……」

【悠】「……ちゅっ……ちゅぷっ……ちゅっ……ちゅっ……ん——ちゅっ……ちゅっ……はあ……ちゅぷっ……ちゅっ……」

【悠】「んっ、んんっ！　ちゅぷっ、れろっ……ちよっ！　んんっ、やっ、激しっ……ふあむっ！　ちゅるっ、れろ……ちゅぷぷっ、んんっ、ちゅっ」

【悠】「んぷっ……れろっ、れろっ……ちゅっ、れろっ……んぷっ……ちゅっ……んちゅっ、れろっ、ちゅ、ちゅ……ん……ぷはっ」

【悠】「はあ、はあ、はあ、はふうう……んもう、こんな、舌絡めながらキスされて、あんたのよだれ飲まされたらエッチな気分になっちゃうじゃない、バカア……」

【悠】「むううう……何かアタシばかりしてやられてるみたいで段々ムカついてきた……今度はアタシからキスしてあげる！　ほら、こっち向いて舌出して！」

【悠】「あゝむっ！　んっ……んちゅっ、ちゅっ、ちゅるっ……くふっ、んうう……ちゅるっ、んむっ、れるっ」

【悠】

「んじゅっ、ちゅう、ちゅっ……ちゅぶっ……れるろ……んちゅっ！ れるっ！ れるれるれるる……ちゅ♪ ぷあぁっ、はぁあんっ……」

【悠】

「あ、よだれ垂れちゃう……んっ、ぢゆるっ、れるろ……ちゅっ、んん、ちゅー、ちゅりゅ、ちゅぱ」

【悠】

「はあ、はあ♪ ん、キス、おいしい♪ おいしすぎて止まんない……んちゅっ、ちゅぶっ……ちゅっ……ちゅっ……んー……ちゅっ……ちゅっ……はあ……ちゅぶっ……ちゅっ……」

【悠】

「あんたも、気持ちよくなってくれてる？ ちゅ、くちゅ……んんっ……れるろ……くちゅ……んふっ……はあ……ちゅむっ……くちゅ……んちゅっ……」

【悠】

「ん、えへへ、嬉しい……そんなにイイなら、もつとキスしてあげなくちゃだね」

【悠】

「んむっ、ちゅ、ちゅっ♪ ちゅぶっ……はぷ！ んちゅっ、あっ、れるろ……あむ、んんっ……！ じゅちゅちゅくく！」

【悠】

「んちゅっ……くちゅ……んんっ……れるろ……くちゅ……んふっ……好き……ちゅむっ……くちゅ……んちゅっ……」

【悠】

「舌れろれろ絡めて……じゅぷっ！　じゅりゅりゅりゅ！　れろれろ……ちゅぷぷっ！　じゅりゅっ！　れるれる……んちゅっ！　じゅるるる……っっっっ！」

【悠】

「んっ！　んんっ！　んちゅっ！　じゅっ、ちゅっ……れるじゅぷっ、ちゅ、ちゅぷっ！　ん、んんっ！　ぷはっ！　はあ、ちよ、ちよっと、んん、あん……♪　や、ま、待って待って！」

【悠】

「はあ、はあ、ん、やあ……あ、あんたのそれ、アタシの……おまんこに当たってるからあ……」

【悠】

「そう、あんたのおちんちん……ううう……こんなに大きくなって……朝抜いてきたりしなかったの？」

【悠】

「まあ、アタシとエッチする為に我慢してたっていうなら、その……ちよっと嬉しくなっちゃうけど……♪」

【悠】

「んん、ヤバ……興奮しておまんこ濡れてきちゃった……ダメ……パンツぐちよぐちよになっちゃう……」

【悠】

「あ、またおちんちん大きくなって……あはは、アタシの濡れたおまんこ想像して大きくなっちゃったんだ♪　やうらうらう♪」

【悠】

「って、ちょっ！ わ、わっ！ 手、そんなスカ―トの中につ！ あ、こら！ パンツ捲っちゃダメ！ お汁洩れるから！ おまんこ発情しちゃってるからあ！ や、ひゃんっ！？」

【悠】

「ああん、もう、ばかあ……そんな急におまんこ触っちゃ……やあ……ダメだってえ♪」

【悠】

「あ、やつ！ 指、気持ちいい♪ おまんこくちゆくちゆされるのダメ……感じちゃう♪」

【悠】

「ん、んんっ！ 気持ちいいの止まんない！ おまんこきゅううってして、あ、あ、あ、ああっ！ くちゆくちゆイイ♪ 気持ちいいよお♪」

【悠】

「あ、ああっ！ そこ、おまんこの入口♪ ん、やあ♪ 敏感なとこコリコリらめえ♪」

【悠】

「クリが内側からコリコリされて感じちゃうう！ おまんこのびらびらコスコスされて愛液止まらないのお！」

【悠】

「あっ、うつ、うあっ、あ、あ、やあん♪ はあ、はあ、ん？ あれ、え？ ちょ、もしかして指奥に入れようとして……やつ！ 待って！ それはダメ！ これ以上入れられたら……！？」

【悠】

「いやっ！ あ、あっ！ んひゃああ！？ んひっ！ やっ！ ちよっ！ だ、だめ……これだめえ……指でおまんこ広げちゃ……こんなのダメ！ あっ、やっ、お汁洩れる！ おまんこから洩れちゃううう！」

【悠】

「やあ……お汁太ももに垂れて床に零れてる……エッチな水たまりになっちゃってるのお……」

【悠】

「あ、やん！ そんなまた指動かしておまんこのひだかきわけちゃ！ ちよっとだめだってばあ！ あっ、ひゃん！？」

【悠】

「やっ！ やっ！ やっ！？ ちよ待って！ ほんとダメ！ 待って待って待ってまってえ！？」

【悠】

「おまんこイっちゃう！ お店の中でイっちゃう！ だめだめ！ 気持ちよすぎておかしくなる！ 指だけでイっちゃうう！」

【悠】

「ひゃう！ また激しく！ あっ、あっ、あっ、ああっ♪ おまんこダメえ！ おまんこイクう！ クリイっちゃう！ おまんこビクビク震えちゃううう！！」

【悠】

「ああんもう本当にイクから！ おまんこ気持ちよすぎて、あ、あ、んっ！ やっ！ あうっ！ んん！ やらあ！ 吹く！ 吹いちゃうっ！ お潮吹いちゃうのおおお！」

【悠】

「んあああ♪ やあ♪ イクう♪ イクイクイクイ
クツ！！ んんっ！！ イつくうううう
うう！！」

【悠】

「んっひやああああああああああ！！??」

【悠】

「やあああ！！ あ、あっ！ ああっ！ ダ、ダメ
エ！ おまんこからエツチなお汁溢れて！ プシ
ヤー——って勢いよく出ちやってる！」

【悠】

「ああ！ み、見ないで！ んあっ、あ、やつ、
な、何でって、は、恥ずかしいからにきまつてる
でしょ、バカア！」

【悠】

「え、や、ちよっと！ やっ！ やあっ！ イって
るのにまた指っ！ やっ！ イグッ！ ちよダ
メ！ んっ、な、のおッ！！」

【悠】

「んあ！ はっ、あ、あううつ、やあ♪ お潮す
くつつややあ♪ ん、ひやつ！ んああああ♪
おまんこおもちゃにしちやらめえ♪」

【悠】

「って、ちよ、そんな奥まで来ちゃ、んん！ ん
ひや♪ あ、あうう♪ んん♪ 中、かき分けて
きてえ♪ 入口来ちゃう♪ 子宮の入口い♪
あ、あああ♪ んにやあああ♪」

【悠】

「あ、あ、ああ♪ ひやううう♪ おまんこしゅー
い♪ ぴちやぴちや音出てえ♪ エツチな音響い
ちやってえ♪」

【悠】

「あ、あつ、だめ！ イったばかりなのにまったく
る！ おまんこきちゃうッ！ んっ、はああああ
うっ！ う！ は、はあああ——っ！ 気持ちい
いのきちゃうのお！」

【悠】

「やつ、あ、にやつ！ やああっ！ ここお店なの
にい！ あつ、んああっ！ おまんこ欲しがって
る！ おまんこ気持ちよくなりたがってる
のお！——」

【悠】

「んっ！ んやつ！ あ、あああああ！！ これ
以上はほんと無理い！ 立ってらんない！！ 腰
抜けちゃうからあっ！——」

【悠】

「あっ！ んむう！ ちゅ！ ちゅぷっ！ ん
んっ！ ちゅ……れるれる……ちゅぷっ！ は
ふっ！ きやつ！——」

【悠】

「はあんもう！ おまんこ弄られながらキスなん
てえ♪ んっ、やつ、そ、そんな事されたらアタ
シほんとダメになるう……墮とされちゃうう♪」

【悠】

「んちゅっ！ ちゅぷっ！ じゅぷっ、んじゅっ！
れるれる……ちゅうう、んじゅっ！ じゅぷ
ぷっ……れるれるれる……！」

【悠】

「ううう、っあ、んむう♪ ちゅ、ん、 んん！
ちゅぱあ♪ や、やあっ！ ダメっ！ 我慢無
理！ もう無理だからあ！——」

【悠】

「んあっ！ ひゃっ！ あああああっ！！ イグッ♪ 抱きしめられながらまたイクう♪ おまんこくちゆくちゆされてイクからあ♪ 大好きなあんたの前ではしたなくイっちゃうからああ！」

【悠】

「んひゅうううう！ あ、あ、んにゃっ！ あっ、あああ！ ひゃっ！ ひう！ んっ！ やっ！ あ、あ、あ、あああああああ！！！」

【悠】

「ふひやああああああああっ！！！？ああっ！ あ、あっ！ ひやああああああああああん！！！」

【悠】

「あっ、あっ、ひあ、あああああ……やああ♪ おまんこ潮吹きい……おもしろい……き、気持ひいい……おかひくなりゆうう……」

【悠】

「はあ、はふう……これ、ヤバ……体に力入んなくて、んあっ、お、おまんこひくひく止まなくて……あ、ヤバイ。ヤバイヤバイヤバイ！」

【悠】

「ごめん！ ちょっと離して！ これほんとヤバイやつだから！ おまんこ潮吹きなんかより断然ヤバイのきちやうからあ！」

【悠】

「あ、あ、あ、んあああ！！ む、無理！ もう我慢できない……やつ！ 見ないで！ 見ないでえ！ んあ、ああ、あああああああ！！！」

【悠】「やああああああ……やあ！ ダメえ……見ないでええ……おしっこ見ちゃだめええ……」

【悠】「あ、あ、ううう……ああんもう……だめえ……止まんないい……おしっこ止められないいい」

【悠】「ん、ひやうっ！ あっ、ああん……やあ……あんたのズボンにかかってる……黄色いおしっこワンちゃんみたいにかけちゃってるう……」

【悠】「はふっ、んひやつ、はあ、はあ……はあ……むううう……バカあ、ほんとバカあ……スケベ！ 変態！ ど変態！！」

【悠】「アタシがどれだけダメって言っても指止めてくれないし、挙句におもらしまで……ううう！ 恥ずかしいすぎてどうにかなっちゃいそう……」

【悠】「むううう、お漏らし悠ちゃん可愛いとか何もフオローになってないってば！ バカバカバカバカ！」

【悠】「しかもオープン前にこんなに床汚しちゃったし、おまんことかおしっここの匂いで大変なことになっちゃってるし！」

【悠】「あんたのせいでこんな事になったんだから掃除手伝いなさいよね！」

【悠】

「それと！ 今はおちんちんぴゅっぴゅさせてあげる時間もないから今日は一日我慢して！ わかった？」

【悠】

「そんな悲しそうな顔してもダメだから！ ほら、モップ持ってあんたも手伝って！ それとズボン脱いで着替えてきて！」

【悠】

「んもう！ パパッと掃除して、今日もいっぱいお客さん呼んで頑張るんだからね！」

トラック03…乙女なギャルは凄腕ガンマン……？

【悠】「いやゝ今日もお疲れゝ」

【悠】「もうクタクタだね。こんなにお客さんが来るとは
思わなかったわ」

【悠】「SNSのおかげなんだろうけど、この調子だと2人
お店回すのは厳しいかもねゝ」

【悠】「ん？ ああゝ親父？ あのバカはサバゲーでまた
無理して腰をやっちゃってね」

【悠】「そのまま病院に連れてかれて療養中」

【悠】「ほんと、いつまでたっても子供のままなんだか
ら、あのバカ親父は……」

【悠】「まあでも、おかげであんと2人つきりになれて
る訳だし、その点については感謝してもいいか
も」

【悠】「ん、そだよ？ 今日は親父が家にいないから正真
正銘アタシとあんたの2人つきり」

【悠】「だからさ？ せっかくの機会だしこのまま泊まっ
てく？」

【悠】「ふふっ♪ うんうんって頷いちゃって……な〜に
期待しちゃってんの？」

【悠】「な〜んで、まあ朝から……そのう……エッチ……
おあずけだったもんね」

【悠】「あれから結構時間経ってるし、それにお仕事も頑張ってくれたから……」

【悠】「今夜はいっぱいエッチして、気持ちよくしてあげる♪」

【悠】「さ〜てっ！　そういうことから、パパッと残りの閉店作業終わらせますか〜♪」

【悠】「ん〜……あと残ってる場所は〜……ああ、シューティングレンジだけか」

【悠】「そういえばさ……あんたがうちに来てから何だかんだシューティングレンジで勝負したことなかったよね」

【悠】「どうせ急いで片づける必要はないんだし、せっかくだから二回やってみる？」

【悠】「あはは♪　目が子供みたいに輝いちゃって。やっぱ男子って勝負事好きだね〜」

【悠】「なら善は急げってね♪　まずは使う銃を選ぼっか。そうだな〜……アタシは〜、んん〜、じゃあこれ！」

【悠】「ん、いい感じ。ほら、あんたも早く好きな銃を選びなさいって」

【悠】「お？ ハンドガンかゝしかもリボルバー式。結構渋いチョイスじゃん。でもそれオートマチックよりちよっと扱いが難しいけど大丈夫？」

【悠】「このリボルバーはね、ダミーカートっていう実弾と同じ形の弾を込めて打てるの。リボルバーの弾倉を引き出してみて。指で引き上げるようにして……」

【悠】「そそ。そんでこの空洞になってるところに弾を入れていって」

【悠】「最後に込め終わった弾倉を銃身に勢いよく戻す！」

【悠】「これで準備オッケー。どう？ おもちやの銃だけど結構本物っぽいでしょ？」

【悠】「適当に力チャカチャ手癖で遊ぶだけで楽しいからね。気に入ったんなら貸してあげるから言ってよね♪」

【悠】「勿論普通なら店外に貸し出しとか絶対しないけど、あんたは別」

【悠】

「こういう銃とか気に入ってもらってずっとサバゲーに付き合ってた欲しいし……それに、もし将来、そのう……結婚、とかしたら、結局全部あなたの物になるんだし……」

【悠】

「って、わあ！ わあわあわあわあ！！ い、今の無し！ き、聞かなかったことにして！」

【悠】

「つてえ！ ちょっと！ ニヤニヤするなあ！ 馬鹿あ！ バカバカバカバカあ！！」

【悠】

「むうう！ と、とにかく！ これで撃つ準備は出来たんだし、続けるよ！ んもう……！」

【悠】

「ほら、このままシューティングレンジの先にある的を狙って……って、あちゃあ……腕がふるふる震えて……構えが完全に素人になっちゃってるじゃん」

【悠】

「仕方ない。始めは私が後ろから腕支えてあげてからちよっと待ってて」

【悠】

「んしょ、と……はい、このまま支えてあげてから、あっちの的に向けて撃ってみて」

【悠】

「ん？ あれ、どうしたの？ 何で撃ち始めないの？ もしかして弾詰まったとか？」

【悠】

「んん？ そんな鳥肌立てて下向いて……って！
あ、あんた！ 何でズボンのそこ……！ お、お
ちんちん大きくしてるのよお！」

【悠】

「あ、もしかして背中におっぱい押し付けただけで
勃起しちゃったとか？ あは♪ あはは♪
ちよつとあんた、ウブすぎでしょ♪ 一体今まで
どれだけエッチな事してきたと思ってんのよ♪」

【悠】

「ん、ぷふッ！ あはは♪ あはははは♪ いや、
ほんとダメ♪ めっちゃ面白い♪ めっちゃ可
愛い♪」

【悠】

「なうら♪ もっと押し付けてあげる♪」

【悠】

「ん、ほうら♪ 大好きな悠ちゃんのおっぱいだよ
う？ そうれ♪ むにゅむにゅう、むにゅむ
にゅう♪」

【悠】

「あはは♪ どんどん照準ずれてきちゃってるし♪
ちゃんと狙わないといつまでたっても終わんな
いよう♪」

【悠】

「それぞれ、おっぱいむにゅむにゅ♪ おっぱいぱ
ふぱふう♪」

【悠】

「くすす♪ はあ、笑った笑った♪ っていつまで
もふざけてたら終わらないね……アタシがしっか
り支えてあげるからエッチな事は我慢して。でも
その代わり……」

【悠】「もし本番勝負でアタシに勝てたら、どんなエッチで厭らしいお願いでも聞いてあげる♪」

【悠】「だから集中して。感覚を研ぎ澄まして……そう、そのまま……リラックスして、的をよく見て……
……そこ！」

【悠】「ふう……とりあえず当たったみたいで良かった。
このまま残りも撃っちゃおっか。ほらいくよ」

【悠】「はい、お疲れ様。命中率は……の分の♪か。結構やるじゃん。これならいい勝負ができそう」

【悠】「じゃあこのまま弾交換して本番いこっか」

【悠】「まあ本番っていつでもルールは簡単。シューティングレンジの先にダーツの的みたいな円が印刷された紙が見えるでしょ？ あの円の中心に当たれば高得点がもらえるの。もちろん円から大きく外れたら0点だからね？」

【悠】「交互にそれぞれの回撃って、その合計点が高い方が勝ちってわけ。どう？ 簡単でしょ？」

【悠】「んで、万が一あんたが勝ったら、さっき言っただいアタシを好きにしていよいよ」

【悠】「まあここはアタシのホームだし、負ける事はないと思うけど♪」

【悠】「じゃ、準備はいい？　ここからはやり直しなしの
一発勝負なんだから」

【悠】「お手本も兼ねてアタシが先行ね」

【悠】「ふっふっふ♪　悠ちゃん隊長の華麗な銃さばき、
とくと見てなさい！」

【悠】「え……う、嘘……アタシが50点であんたが52点つ
て……アタシの負けじゃんっ……！」

【悠】「え、え！？　何？　もしかしてアタシがいない時
に隠れて練習とかしてた！？」

【悠】「いや、だ、だって！　何年もここで遊んでるアタ
シがこんな簡単に負けるなんて……あのバカ親父
にだって最近はやったことなかったのに……
……！」

【悠】「うあ、あ、うう、ううう……！　分かった……分
かったわよ！　アタシの負け！　煮るなり焼くな
り好きにすれば……！」

【悠】「え？　あ、ちよ、ちよっと？　確かに好きにすれ
ばって言ったけど少しは心の準備を……て、
やっ！　きやあっ！？」

【悠】

「ねえ？ アタシ、確かに何でも言うこと聞くって
言っただけさあ……」

【悠】

「どんなエッチな要求も聞いてあげるって言っ
ちやっただけさあ……」

【悠】

「でもね……？ こんな訳わかんない衣装着させら
れるとは思ってなかったんですけどおっ！？」

【悠】

「何この衣装！？ いや、バニーガールっていうの
は分かるんだけどね！ って、やっぱり分かんない
わ！ だってこんなおへそが開いてるバニー服な
んて知らないし！ エッチだし！ 訳わかんない
し……！」

【悠】

「こんなどこで買えるか分からない衣装彼女に着せ
る！？ 普通！ ってかすごい自然にアタシの
部屋からこの服出てきて引いてるんですけ
ど！？？」

【悠】

「え！？ 何！？ もしかしてアタシが知らない内
に他にもこんな訳わかんないコスプレ衣装仕込ん
でないわよね！？？」

【悠】

「もしそうなら本気で怒るんだからあ！」

【悠】

「ふえ？ あ、いや、アタシに似合うと思って買ってきてくれたって事自体は、べ、別に、嫌じゃな
いってというか、普通に嬉しいというか……むうう
ゝゝゝ」

【悠】

「ん、ま、まあ確かに？ アタシくらいになればど
んな衣装も着こなしちゃうし？ アンタの変態コ
スプレ願望を叶えてあげられる人なんてアタシだ
けだし？」

【悠】

「しょうがないから、今回は勝者に免じて、あんた
だけの兎ちゃんになってあげる」

【悠】

「ここまでするなんて本当に特別なんだから、感謝
してよね！」

【悠】

「ふう……それで？ せっかくこんな恥ずかしい衣
装着てあげたんだから、ほら、何かして欲しいこ
とがあるなら言いなさいって」

【悠】

「ん？ は？ え？ ええ！？ い、いくら何でも
そんな恥ずかしくて頭のおかしい事出来るわけな
い……ってかほんと無理！ 恥ずかしすぎて一生
消えない黒歴史になるから！」

【悠】

「あ、いや……確かにそうだけど……ううう……最
悪う……調子に乗って変な約束しなければよかつ
たあ……」

【悠】「あううう……わかった！　ちよっとだけだからね！　ちよっとだけなら、あんたの言う通りにしてあげる………ぴょん………」

【悠】「は、はあ！？　聞き取れなかったからもう一回つて……ううう……アタシが断れないからつてえ……わ、分かった………ぴょん………」

【悠】「ひやうううう……語尾にぴょんとか、こんなの恥ずかしすぎて死んじやうう………穴が合ったら今すぐ入りたいぴょん………」

【悠】「つて、あ！　今アタシのこと悠ぴょん隊長つて言っただでしょ！　また変な呼び方して！　恥ずかしいからやめてつてば！」

【悠】「ん、まあ悠ぴょん隊長つてのも新鮮でちよっと可愛いかもだけど………」

【悠】「むうう……本当に！　本当……にッ！　今日だけの特別だからね！　……じゃなくつて、特別だぴょん！」

【悠】「んにやああ！！　自分で言っておきながら自分で悶絶してどうにかなりそうだぴょん！　つて、え、ちよ、ひやわっ！？」

【悠】「つて……ちよっと、急にテーブルの上に押し倒すとかビックリしたぴょん！　怪我とかしたらどうするぴょん………つて顔近っ、んむっ！？」

【悠】

「んんっ！ んむっ！ ちゅっ……んちゅっ……
ちゅるっ、じゅっ、ちゅゝっ、んんっ、ちゅっ……
…んちゅう……ぷはっ！」

【悠】

「はあ、はあ……きゅ、急にキスなんて興奮しすぎ！ そ、そんな我を忘れちゃうくらいあたしのバニーが気に入ったぴょん？」

【悠】

「わ、思いつきり首を縦にふっちゃって……そこまです喜んでくれるなら満更でもないけどさ……」

【悠】

「ほら、もっとキスしてあげるから、顔寄せるぴょん……」

【悠】

「んっ、ちゅっ……ちゅぷっ……ちゅっ……ちゅっ……
……んー……ちゅっ……ちゅっ……はあ……ちゅ
ぷっ……ちゅっ……」

【悠】

「ちゅぱっ……はあむ、れるっ……くちゅっ……れ
ろ……れろれろっ……あむっ、ちゅっ、んぷっ、
ちゅぴゅ……」

【悠】

「はふう……何か今日のキス、いつもと違って気持ちよくって、体、火照ってきちゃうぴょん……」

【悠】

「って、ちよっ、ちよっと！ アタシがぼーっとしてる間にさりげなくおまんこに顔近づけないでぴょん！ やっ！ ダメえ！ ひゃっ、ひゃううっ！？」

【悠】「あ、やあ……おまんこ見ないでぴょん……恥ずかしいぴょん……」

【悠】「わっ！ ま、待って！ 待って待って！ これ以上はダメ！ ダメだってえ！」

【悠】「いやあ！ おまんこエッチなお汁でびちよびちよで蒸れちゃってるからあ！？」

【悠】「う、嘘……や、やめっ！ ひやわあああっ……！」

【悠】「やだ！ バカバカバカ！ おまんこ舐めちゃダメ！ 仕事終わりでまだお風呂入ってないし、汚いから！ 絶対匂うからあ！」

【悠】「やっ！ ん、んんっ！！ ぴょんんんっ！！؟؟ ちよっ！？ やあらあ……！ ストッキング越しに舌感じて……！」

【悠】「ひゃんっ！ ちよっと待って！ これ、ぺろぺろ、激しすぎい！ こ、こんなの、おまんこヒクヒクしちゃって……や、やらあ……！ 溢れちゃう♪ エッチなお汁溢れちゃうう♪」

【悠】「ちよっ！ バカ！ こんな事されてぴょんぴょん言ってられる訳……んひやあっ！？ やっ！ あ、あんっ♪」

【悠】「待って、ほんとダメだから！ そんなにおまんこペロペロされると気持ちよすぎておかしくなっちゃうからあ……！」

【悠】「ひやううう！ あ、あ！ やあ！ また激しくなつてえ！ んん♪ こ、こんなのダメっ！ バニ―着たまま出ちゃう！ おまんこからお潮出ちゃううう！」

【悠】「あつ、あつ、あつ、あつ、ああつ！ ダ、ダメエ！ おもらしダメええ！！ おまんこゆるゆるになっちゃう！ おまんこバ力になっちゃう！ あつ、あつ、あああ！ ダメ！ ダメダメダメダメエ！！」

【悠】「ぴよんぴよんしながらイク！ おまんこイグう！ イッちゃう！ イク！ イクイクイクイク！！ イッくううううううう！！」

【悠】「んひやあああああああああああ！！！！」

【悠】「やつ！ やあああ！ あ、あ、あ、ああ♪ んひやつ！ ひやうううう♪ や、やだあ……！ これ、バニ―の下から出てる……プシヤッっておもらししちゃってるう……♪」

【悠】

「んひゃっ！ あっ、あう……あうあうう……おまんこ生暖かい……やあ、見ないでえ……おもらししているとこ見ないでってばあ……んん！ ひやううう……んひゃっ！ はううう……おまんこ発情してるのバレちゃう……やあ、恥ずかしいってばあ……」

【悠】

「あ、や、やあっ、ちよ、ちよっと！ 嗅がないで！ おもらしおまんこ嗅がないでえ！」

【悠】

「あひっ！ んひゃ！ あっ、あっ、あっ！
ちよっ！ そんな口付けて吸っちゃうなんて！
バカッ！ 変態変態！！」

【悠】

「んっ、あ、やっ、ひう、うう……んひゃ！ らめっ！ クリ、今イッたばっかで敏感になつてっ！ あっ！ んにや！ いやっ！ ひゃんっ！」

【悠】

「んんっ！！ そんな、ストッキングごとちゅっちゅされたらまたイッちゃう！ お潮吹いちゃうってえ！！」

【悠】

「いや！ おまんこおもらし嫌だから！ んっ、あ、あ、んああんもう！ ダメだって言って……はうっ！？ おまんこの穴やめっ！ あ、やっ、舐めちゃダメなお！！」

【悠】

「そんな、おまんこに舌、ねじ込んだじゃ……ひやうう！？ お、お、お、お、お、おまんこ無理！我慢できない！ イ、イグッ！！ おまんこもうイク！ おもらししてイグうう！！」

【悠】

「あ、あ、あつ、やつ！ イグ！ イッちゃうう！イクイクイクイクッ！ おまんこイッぐううううううう！！」

【悠】

「はっひやああああああああ！！！！？」

【悠】

「んひやあつ！ はっ、はひッ！ んやッ！はっ、はっ、はっ、んっ、やつ、はあ、はあ……う、ううう……はふうう……ひうっ！？」

【悠】

「ちよっ、あ、あんた、まだ懲りずに舐め続けて！？ もう2回もイッちやったのに！ おまんこぐちゅぐちゅなのにい！ やっ！ ちよっ！あつ、ダッ、ダメ……口離してッ！ おまんこ舐めないで！」

【悠】

「やあ！ ダメダメッ！！ すぐイク！ またイクッ！！ イクイクイクイクッ！！ んんんん！！ イッグウウウウウウ！！」

【悠】

「んひやあああああッ！！」

【悠】

「あつ、あつ、んあ……や、あ、あ、あ、あ……ひや、ひやめらつてえ……こんらの頭おかしくなっひやうかりやあ……」

【悠】

「ん、んんっ！ んああ……ひゃっ、はうう！？
ま、まだ、おまんこからぴゅっぴゅ……おまんこ
汁出てえ……♪ あんたの顔にかかってる……
だ、だめえ……飲んじゃダメえ……」

【悠】

「おまんこお……わんちゃんみたいにくっぺくっぺ舐め
るのもダメえ……あんたに飲ませる為に潮吹いて
る訳じゃないんだからあ……」

【悠】

「ん、はうう……もう体に力入らにやい……おまん
こもピクピクするし、衣装もびちよびちよで張り
付いて気持ち悪いしで、ほんと最悪うう……」

【悠】

「は？ いや、ちよっ、確かにおまんこが濡れて気
持ち悪いって言ったけど、脱がせてなんて言っ
てない！ って、やっ、まっ！ ストッキングに爪
立てて、う、嘘！ やめっ……！」

【悠】

「あ、あああ……こんな強引に破くなんて……う
わ、エッチな匂い充満して……すっ……おまん
こゆだってる……」

【悠】

「これ、アタシの匂いなんだよね……ん、すん……
すんすん……はああ……やば、こんな臭い匂
い……自分のおまんこの香りなのに頭がクラクラ
しておかしくなりそう……」

【悠】

「ううう……またおまんこ汁溢れてきて……おもら
しの匂いで興奮するとか、救いようのないド変態
じゃん、アタシ……」

【悠】「それもこれも！ あんたがおまんこ好き勝手した
せいなんだから、責任取ってよね！！」

【悠】「え？ は？ はあ！？ いや、ちよっ！ ばっ！
またそんな変態的な要求してえ……！！ くっ！
くうううう！！」

【悠】「ああんもう！ 分かった！ 言えいいんでしょ
言えば！ ほら、もつとこっちきて！ 一回しか
言わないから聞き逃さないでよね！」

【悠】「んっ、はふう……はあ、はあ……じゃ、じゃあ、
言うからね？ 一度しか言わないからね？」

【悠】「んっ……アタシのおもらしでムレツムレな発情メ
スウサおまんこに、勃起おちんちん入れていっぱ
いわからせて？ あたしを孕ませちゃうくらいパ
ンパンして、おちんちん気持ちよくなってえ♪」

【悠】「あっ、お、おちんちん、いきなり……んっ！
ひゃっ！ はううううううンッ！！」

【悠】「んはッ……あっ、ああっ！ ハッ、はあ、はあ……
♪ や、やっと、おまんこにおちんちんきたあ
♪」

【悠】「あ、ああ……これ、おちんちんイイ♪ すっごい
気持ちいい♪ ずっとクリだけでイカされてたか
ら、尚更……んん……あん♪」

【悠】

「ねえ？ このまま動いて？ 想いのまま、おまんこ壊すくらいのつもりで激しく突いて？ アタシを求めてえ？」

【悠】

「んあ、あ、あ、あ、ああ♪ こ、これえ♪ おちんちん激しい……んんっ♪ ひゃううっ♪ ああ、んああ♪ やあんっ♪」

【悠】

「んっ、あ、ああ！ おちんちん凄いつ！ んああ！ いつもと全然違う！ 激しくて、力強くてえ！ おまんこからお汁ぴゅっぴゅかき出されちゃってるのお！」

【悠】

「んああ♪ やっ！ ひゃっ！ は、はにやあっ！？ んんっ！ や、はふう！ んあ♪ ね、ねえ？ あんたも気持ちいい？ アタシの子ウサギおまんこ気持ちいい？」

【悠】

「んっ！ んんっ！ はっ！ はあ、はあ、今日は、ん、勝負に勝ったあんたへのご褒美なんだから♪ ちゃんと気持ちよくなってくれなきゃ、んああ♪ アタシが、バニーになった意味がないでしょお？」

【悠】

「んん♪ だから、今は何も考えず、ただおまんこで気持ちよくなってくればいいの♪」

【悠】

「あっ、きやあああつ！ んああ♪ やっ！ んひやああつ！ そ、そう！ それでいいのお♪ ああつ、ああん！ もつとお！ もつと激しくしてえ♪」

【悠】

「おちんちんもつと奥までえ♪ おまんこの中裏返っちゃうくらい思いつ切りずぼずぼしてえ♪」

【悠】

「んあああ！ あ、あ、あつ、ああつ！ やああ！！ 凄い！ おちんちん凄いい！！ おまんこの奥、届いてえ！ 子宮下りてきちゃうう！」

【悠】

「やあ！ らめえ！ んああつ！ あ、ああ！ まだ学生なのにい♪ 子宮があんたの子供欲しがってるの分かっちゃうう♪ このおちんちんで分かれちゃうのお！」

【悠】

「んひやつ、う、うう！ ひやうんっ！ おちんちん、コンコンってノックしてえ！ あつ、あつ、ああああつ！」

【悠】

「んにやああつ！ こ、これがせつくしゆう……本気の孕ませせつくしゆなんだあ♪ あ、ああ♪ 幸せ凄いい♪ すっごい幸せ感じちゃうのお♪」

【悠】

「ん、はうう♪ んああ♪ そ、そうだよね♪ あんたの為にこんなエッチな衣装着て、沢山おもらしもしてえ♪ いっぱい恥ずかしいことしたんだからあ♪」

【悠】

「あ、ああん！ はあ、はあ♪ これくらい、あんなにも発情してもらわないと、わりに合わないよね♪ ひゃっ！ はふっ！ ん、んんっ！」

【悠】

「う、ひゃううううッ！ んああ！ あ、あああ♪ あ、は、はあ……♪ あ……んむううッ……！」

【悠】

「ひゃああっ！ お、おちんちん、おまんこの中でまた大きく……！ やっ！ お腹ポコってしてるう！ おちんちんの形に浮き上がってえ……♪ はあ、あっ、きやあ！？ あうっ！」

【悠】

「う、ううう……ああ♪ おちんちんおまんこの中で震えてえ♪ ん、やあん♪ はあ、はあ♪ もう我慢できない？ ん、はうう♪ おちんちん出そう？ 精液出ちゃうの？」

【悠】

「ん、んみゅうう……んんっ、んあっ！ あっ、ああっ、い、いいよお……このまま膣中に出して！ あたしの子ウサギまんこにおちんちんミルクぴゅっぴゅしてえ！」

【悠】

「あ、あ、あ、あああ！ ほら！ イって！ おちんちん気持ちよく出してえ！ ほら♪ ほらほらあ♪ ぴゅっぴゅ！ ぴゅっぴゅ……！ ぴゅるぴゅるぴゅるぴゅる！ ぴゅぴゅぴゅぴゅぴゅううううううう……！」

【悠】「んっひやあああああああああああ
！！??」

【悠】「んあああ♪ あ、あああ——っ、あっ、は
うう♪ つんん!? はっ! はひい♪ ん
おお♪ お、おお♪ イクう♪ おまんこ精
液ぴゅっぴゅされてえ♪ んああ♪ やあ♪ イ
ッちやってる♪ ん♪ イってるのお♪」

【悠】「はあ、はあ♪ 精液い♪ あったかくてえ♪ お
まんこ満たされてえ♪ これダメえ♪ 気持ちよ
すぎてなんも考えらんないってばあ♪」

【悠】「んひやつ、あ、ああ、はあ、はあ、はふうう……
これえ、また襲われちゃたまんないし、今の内に
おちんちん搾り出さないと……」

【悠】「ほら、おまんこでえ、ぎゅっぎゅ♪ らぎゅっぎゅ
♪ らぎゅっぎゅううううっ!」

【悠】「あ、やっぱりまだ残ってた♪ ほら、溜めてた精
液全部出して♪ ほらほら♪ ぴゅっぴゅっ♪
ぴゅっぴゅっ♪」

【悠】「ぴゅるぴゅるるる♪ ぴゅぴゅぴゅぴゅ
うううううう……っ。あはっ♪ おちんち
ん段々小さくなってきた。んじやこのまま抜い
ちやうね♪」

【悠】

「ひゃうっ！ はあ、はあ……あはは、見てこれ見てこれ。おまんこ、愛液と精液とで訳わかんないことになってる……お腹に力入れたらトプトプって流れ出てくるんですけど……」

【悠】

「うわあ……バニーの黒に精液の白って……テカテカしててすっごいエッチ♪」

【悠】

「んん……まあ、私も気持ちよかったし、これだけ射精してもらえるなら、コスプレエッチも悪くないかもね」

【悠】

「あ！ い、いや！ でも、こんな特殊なエッチは当分やんないからね！？ 今日はあるに負けたから仕方なくやっただけだし！」

【悠】

「え？ あ、ちょ……そんな悲しそうな顔されると、その、ううう……」

【悠】

「わ、分かった！ 毎日とかは体がもたないからダメだけど、月に一回ならあなたの好きな恰好で好きなプレイさせてあげるから！ ほら、そんなしょんぼりしないで元気出ささいって！」

【悠】

「って、すぐ機嫌治っちゃうし……ほんとと単純でおバカで……んもう♪ 可愛いんだから♪」

【悠】

「あ、んん、何でもない！ そんな事よりほら、早く後片付けしちやお。こんなエッチな匂い嗅いだらまた発情しちゃうかもだし」

【悠】

「あんたもおちんちん仕舞って手伝ってよね？
ほ
ら、ね、行こ？」

トラック05…乙女なギャルは長電話が好き

【悠】「あ、もしもし？ ごめんね〜こんな夜遅くに電話しちゃって」

【悠】「実はちょっとあんたに伝えておきたいことがあってさ。忘れないうちに電話しとこうかなって」

【悠】「ちなみに今は何してたの？ ん？ お風呂上り？ あんたってこんな時間に入ってるんだ」

【悠】「全く。今日もバイトで汗いっぱいいたんだし、帰ったらすぐお風呂入んなきゃダメじゃん」

【悠】「はあ！？ いやっ、アタシはあんたのママなんかじゃないし！！ 雇用主として従業員が不潔だと困るっただけだから！ 勘違いしないでよね！」

【悠】「……どうせならママなんかじゃなくてお嫁さんって言ってくれば良かったのに……」

【悠】「ひゃわっ！？ あっ、いや、何でもない！ 何でもないから！！ 今言った事は忘れて！」

【悠】「って、え？ 面倒くさい日もあるからって……むうう、付き合ってみて気づいたんだけどさ、あんたって自分の事になると結構無頓着だよね」

【悠】「あ、じゃあこんなのはどうか。ウチでバイトする日は着替えを持ってきていて、そのままアタシんちのお風呂に入ってくの」

【悠】「あんたも仕事終わりにさっぱりしてから帰る方が
気持ちいいと思わない？」

【悠】「遠慮とかしなくていいからね？ バカ親父は何か
言ってくるかもしれないけど、そんな時はアタシが
黙らせるし」

【悠】「ん？ うちのバカ親父じゃないなら、一体何に遠
慮してんのよ？ ほくら、もごもごしてないで
言ってみなって」

【悠】「うん、うんうん………ん？ え？………
………ツッ！？？ バ、バカ！！ バカバカバカ
バカッ！！ こんのド変態！！」

【悠】「ア、アタシの残り湯を飲むなんて許す訳ないじゃ
ん！ 変態！ 変態変態！」

【悠】「仮にエッチな事を考えるにしても、せめて湯に浸
かりながらオナニーするとかそういうレベルで
しょ！」

【悠】「あ！ いや！ 違うからね！ 普段からアタシが
あんたの事思ってお風呂でオナニーしてるとか、
そういうことはないんだからね！」

【悠】「と、とにかく！ 今度からは着替えを持ってバイ
トに来ること！ 勿論エッチなのは無しだから
ね！ 分かった！？」

【悠】「はあ、はあ、ふうう……電話してるだけでめっちゃ疲れた……最近アタシの突っ込み回数が多くなってきたる気がする……」

【悠】「って、話が滅茶苦茶脱線して本題を忘れちゃうところだった」

【悠】「今から大事な話をするんだからよく聞いといてよ？ 聞き逃しても知らないから」

【悠】「ん、で、えっとね？ 実はさ、今日常連さんから山の上にあるキャンプ場のペアチケットもらったんだー♪」

【悠】「そう、隣駅にあるとこ。今の時期は紅葉が綺麗でいい感じだと思うし、休日デートにぴったりなんじゃないかなって」

【悠】「あ、キャンプ用具はうちに揃ってるし、メンズウェアとかもあるから大丈夫」

【悠】「どうせあんたの事だし休日にアタシと会う以外の予定なんてないでしょ？」

【悠】「うん、じゃ一緒に行こうね♪ えへへ♪ 楽しんだな〜♪ 何だかんだあんたと泊まりで出かけるなんてほぼ無かったし♪」

【悠】「どんな事しよっかな♪ とりあえずせっかくの
デートなんだし腕組んで手を繋いでいくのは当然
でしょ？」

【悠】「んで綺麗な山の景色を見ながら山道を歩いていっ
て、キャンプ場でテント張って♪」

【悠】「そだ♪ そのキャンプ場って焚火もオツケーだ
し、せっかくだから♪人で焚火やらない？」

【悠】「パチパチって薪に火をつけられる機会なんて中々
ないし。今の時期寒いのもあってきつと楽しい…
…ってというか雰囲気抜群間違いないだよね♪」

【悠】「んで焚火の前に椅子を置いてあんたが座って…
その上にアタシが乗って抱きしめられて……」

【悠】「そのまま顔を寄せ合ったり本を読んだり……キス
もしちゃって……♪ ん、えへへ♪ なんかい
な、そういうの♪ ラブラブって感じが凄い♪
めっちゃきゅんってする♪」

【悠】「あんたもしたいよね、そういう事。当たり前じゃ
ん♪ 分かるわよそんくらい♪ あんたがどん
だけエッチか身をもって知ってるし」

【悠】「……うん、別にいいよ？ そういう事期待してく
れて」

【悠】

「せっかくあんたと人っきりの野外デートだもん。四六時中あんたと触れ合いたい……あんたに抱きしめて欲しい……ぎゅってして欲しい……」

【悠】

「アタシの事、抱いてほしい……アタシ、彼女だもん……あんたの事大好きな彼女だもん……！ 期待しちゃうのも当然だってば」

【悠】

「ん、えへへ♪ これ、電話で良かったわ……もし今あんたがここにいたら絶対我慢できてない……この場で間違はなく、そのう……エッチ……始めちゃってる自信あるし♪」

【悠】

「あんたも我慢できない？ だって、声、ハアハア言ってるの漏れてるし♪ 興奮してるのバレバレ♪ もしかして♪ アタシとのエッチ想像しておちんちん勃起してたりする？」

【悠】

「でもダメだかね？ 自分で処理なんかしちや。デートでいっぱいエッチするんだからそれまで我慢して？ ね？」

【悠】

「アタシだって我慢するし……めっちゃ弄りたいけど我慢するから……その代わり、キャンプデートですっごく気持ちいいエッチ、しょ？」

【悠】

「いっぱい昼間にイチャイチャして、夜は焚火で抱き合いながらあったまって、深夜にテントで……ね？」

【悠】

「ん、えへへ♪ アタシも楽しみにしてる♪
じゃ、細かい話はまた学園でね？ うん、また。
お休みいっしょ♪」

【悠】

「うわぁーすっごお！　こんな綺麗な山に来たの生まれて初めてかも！」

【悠】

「川の水は澄んでて底が見えるし、紅葉も黄色にオレンジに赤色に！　芸術とかよくわかんないけど、この景色が綺麗ってのは流石に分かるわ」

【悠】

「すうううううう……はああああうう……うん、空気もおいしい♪　ここに来て正解だったね♪」

【悠】

「普段ウチの店で山に行くってなると、絶対サバゲー会場だからね。土と草塗れで風情はないし、音がしたと思ったら出てくるのはむさ苦しいおっさんばっかだし……」

【悠】

「まあサバゲー向きの山選びだから、そうなるのは当然っちゃ当然なんだけど……」

【悠】

「でも今日ここに来て気づいた！　アタシが今まで行ってた山は本当の山じゃなかったんだって！」

【悠】

「これからはもっとキャンプの勉強して、オシヤレもして山ガールになる！　今決めた！」

【悠】「あんたも付き合ってくれる？ いやだって、始めからソロキヤンってのはちょっと怖いし、こういう事誘える人なんてあんたしかいないし……」

【悠】「わ！ ちょっと！ そんな憐れむような目で見られるとム力つくんですけど！ あんただってアタシ以外に誘ってくれる友達なんていないくせに！ ……って自分で言ってて悲しくなってきた……」

【悠】「……」

【悠】「ううう、考えるの止め止め！ 今日は気分転換にきたんだもん！ いっぱい楽しまなくっちゃ！」

【悠】「あんたもさ。これからもアタシといろんなとこに付き合ってよね！ 分かった？」

【悠】「ふう、まったく、最初から素直に頷いてればいいの……って、わわっ!？」

【悠】「はぶッ……ご、ごめん……段差につまづいちゃった……受け止めてくれてありがとう」

【悠】「んっ……せっかくのデートだし、また転びそうになるのも嫌だし……あんたの腕かりるね」

【悠】「んー、よっと！ ほら、あんたも腕、アタシの胸に寄せて寄せて」

【悠】

「ん、あったかい……♪ ほら♪ 指も絡めて……
えへへ♪ これなら転ぶ心配もなくなったね♪
安心安心♪」

【悠】

「よし！ じゃあこのまま行こっか♪」

【悠】

「キャンプ場についたらテント張って、すぐ」はん
作ってあげるから楽しみにしててよね」

【悠】「ふう……これでペグは最後かな？ いやー、意外とテント張るのって大変なんだね。あんたがいなかったら絶対苦戦してたわこれ」

【悠】「最近だと一人でキャンプするソロキャン？ ってのが流行ってるってテレビで特集されてたからさ、皆やってんなら簡単でしょって思ってたけど、いやゝ舐めてたわ」

【悠】「次来るときは事前にたくさん練習しとかなきゃだね……ん、しょっと」

【悠】「よし！ テントも張り終えたし、お楽しみのお料理タイムに移りますか♪」

【悠】「今日はせっかくのキャンプ飯だし、ちゃんとした料理がしたいなゝって思って、あらかじめ家で下準備しておいたんだよねー」

【悠】「んーっと……あ、あったあった。ほら、ジヤーーーン！ 見てこれ見てこれ！ 悠ちゃん特製パスタ、キャンプ仕様ゝ！」

【悠】「どうどう？ 結構よくない？ ソースは予めウチで自作してタッパーに入れたいの」

【悠】「そんでカップの中でパスタを茹でて、そのままソースを絡めるだけで完成♪」

【悠】「外でも簡単に出来ちゃうし、時間もかかんないからキャンプ飯にピッタリだと思ったんだよね」

【悠】「あ、いや、まあちよっと簡単すぎるかなって思わなくもないけど、初めてのキャンプで失敗しちゃうよりはマシかなって」

【悠】「だって、キャンプ飯について調べてたら、カップルが気合入れすぎて料理に失敗、そのままギスギス……なんて話も見かけちゃって……」

【悠】「せっかくのデートなのにそんなことになったら最悪じゃない？ 少なくともアタシは絶対そんなキャンプにはしたくなかったし」

【悠】「だから、ある程度料理してる感とおしゃれな雰囲気が出せて失敗しづらいパスタにしてみたってわけ。どう？ 楽しみになってきた？」

【悠】「って、あはは♪ あんたのお腹くううってご飯おねだりしちゃってるじゃん♪ そんなに楽しみにしてくれてると思うと……えへ♪ ちよっと嬉しくなっちゃうかも♪」

【悠】「なら期待に応えてさっさと作っちゃわないとね♪ ささ♪ 料理するからこっちきて」

【悠】「んじゃ、パパッと作っちゃおっか。まずは水を入れたカップをバーナーの上に置いて……」

【悠】

「わ！ 意外と火が強くてビックリしちゃった。ちよっと調整してっと……あとはこのまま沸騰するまで待つだけかな」

【悠】

「そうだ、どうせならカップの上にタッパーを置いてソースも同時に温めちゃおう」

【悠】

「あんたはどのソースにする？ 気合入れて色々作ってきたからね。例えばミートソースにカルボソース、バジルソースに和風ソース！」

【悠】

「ん？ やっぱミートがいい？ オッケー。んじゃアタシはカルボにしてっと……」

【悠】

「ふう……冬が近いのと標高が高いのもあってか、流石に冷えるわ」

【悠】

「ほら、あんたも寒いでしょ？ もうちよっとアタシの方に寄って寄って……えいっ！」

【悠】

「こうやってくっついてればもっとあったかいでしょ？ せっかく〜人っきりのデートなんだし遠慮しないの」

【悠】

「んん♪ ぎゅううううう♪ ぎゅっぎゅうう♪
はあう♪ あったかい♪ 湯たんぽ彼氏さいっ
こううう♪」

【悠】「バーナーの火も、ちょっと心元ないけどあったかいし、こういう人とか火の温もりを感じるのが冬キャンプの醍醐味って奴なのかな」

【悠】「夕方からはもっと冷え込むだろうし、ご飯食べ終わったら焚火に挑戦してみよっか♪」

【悠】「前電話した時にも話したけど、ここのキャンプ場は焚火オツケーなとこで焚火台のレンタルもやってるしね♪」

【悠】「事前に親父からやり方も教えてもらっておいたしきつと問題なく出来ると思う！」

【悠】「え？ あんたも焚火やったことあんの？ バイトで？ 焚火が必要なバイトって一体何なのよ……」

【悠】「つて、わ！ もう水沸騰してる！ 早く蓋開けて！ 吹きこぼれる前にパスタ入れなきゃ！」

【悠】「ふうぅ……よし、これでオツケー♪ あとは茹で終わるのを待ってパスタソースと絡めたら出来上がりかな」

【悠】「パスタって普段は平べったいお皿に盛りつけて食べるから、こうやってカップ麺スタイルで食べるのはキャンプ飯ならではのって感じるわ」

【悠】「今度お店のサバゲーイベントで作ってみようかな？ 疲れててもこれなら手間いらずですぐ出来るし」

【悠】「それかいっそカップサイズの器を用意してティクアウト専用パスタとして売っちゃうのもありかも」

【悠】「うちのお店のロゴとか印刷してさ、立ち食いも出来ちゃうカップスープパスタ！ 今時の若い子向けでオシャレだしいいけると思わない？ これを機にまともなお客さんを取り込むの！」

【悠】「そしてあのむさ苦しいカフェをもっとおしやれに……って、ああ！ 今『まだそんな事考えてんのか……』って顔したでしょ！ 分かるんだからね！」

【悠】「当たり前でしょ！ あたしはまだ諦めてないから！ 絶対にサバゲーオタクしかいない変なお店ってイメージを払拭するの！！」

【悠】「学生や〇〇が集まるオシャレな雰囲気のカフェにして、ゆくゆくは有名な雑誌に取り上げてもらうんだからあ！」

【悠】「……ってほら、話が逸れてる間にパスタも茹で上がっちゃってんじゃん！ 火止めて止めて！」

【悠】「このままお湯を捨てて……温めたソースをカップに注いで……っと……はい！ 完成！」

【悠】「ほい、これフォークね♪ ソースのお替りもあるしお腹いっぱい食べてくれていいから」

【悠】「んじゃ、一緒に食べよ？ えへへ♪ いっただっきま〜す♪」

【悠】「はむっ♪ ん、んん♪ んむ、んむん、ごく……はあ〜♪ おいしい〜♪ なんだろう、別に普段家で作ってるのほとんど変わらないのに、めっちゃくちや旨く感じるわあ♪」

【悠】「やっぱり野外っていうシチュが特別なんだね〜♪ ん、もう一口い♪ はむ♪ ん、ん、ん、んん♪ んむ♪ ごくっ……はああ♪ あったかい♪」

【悠】「冷たい風に当たりながらあったかい物を食べる……たったそれだけが幸せすぎでしょお〜♪ んん♪ はむ♪ ん、んん♪ んむ、んむう♪」

【悠】「つて、ん？ な、なに？ こっち向いて……ふえ？ あんたのミートパスタ、一口くれるの？」

【悠】「そっか、外であ〜んっていうのも、ちょっと恥ずかしいけど、何か新鮮だし……食べさせ合った方がもっとおいしくなるかもだしね」

【悠】

「それじゃあ遠慮なく……あ、あ~~~~~む
♪ んむ♪ あ、あちゅい♪ は、はふっ、はふ
はふっ、ん、んむ、ん、ん……ごくっ……
はああ♪ ヤバ……めっちゃおいしい気がする……
……ってか味よく分かんないや……」

【悠】

「いや、だって！ あんたずっとアタシの食べてる
姿見つめてくるし、外であ〜んされて恥ずかし
かったし、味に集中できなかったというか何てい
うか……」

【悠】

「って、ふえ！？ ま、また食べさせてあげるって
……う、ううう……もう分かったわよお……ん、
あ~~~~む♪ ん、ん、はふっ、んむ、んむ……
……ん、ん、ごく……」

【悠】

「はあ~~~~♪ 美味しい♪ マジで幸せすぎて
感動するわ……ねね？ アタシもあんたにあ~~~~
〜んってしてあげる♪」

【悠】

「ほら、遠慮しないで口開けて？ ん、それ♪ は
い、あ~~~~ん♪」

【悠】

「どう？ おいしい？ って、あはは♪ 顔ゆるゆ
るになってるよ？ にひひ♪ そんなにおいしん
だあ♪ ならもう一口♪ はい、あ~~~~ん
♪」

【悠】

「何だかアタシが彼氏を餌付けしてるみたいで……はあ♪ なんだろコレ。ただ食べさせてあげてるだけなのに、すごい胸がポカポカして、むずむずして……あんたの事、愛しくて愛しくてたまわない♪」

【悠】

「ふえ？ これが母性って奴なの？ んん？ 正直あんまりピンとこないけど……えへへ♪ でもそっかあ……これが母性って奴なんだあ♪」

【悠】

「なんだか不思議な感じ。お母さんもアタシを育ててる時こういう気持ちだったのかな……そっか、これが母性。母性なんだあ……♪」

【悠】

「あのさ、もしだよ？ もしもの話んだけどさ？ 私とあんたの、そのう……こ、子供がさ、出来たりしてさ、アタシが本当のママになったら……こういう幸せな気持ち、もっといっぱい感じられるのかな……なんて……」

【悠】

「今さ、あんたと一緒に食事してるだけのこの時間がほんと幸せすぎてね？ もうあんたのいない時間なんて思い出さなくらい今が最高に幸せなの」

【悠】

「別に特別な事して欲しいとかじゃなくって。ただ隣にいて欲しい。こうやって他愛もない話をして、ご飯を食べてテレビを見たりして……一緒に時間を共有するだけでいいの」

【悠】

「だからさ、こんな事いうと重いつて思われるかもしれないけど……アタシの傍から離れたりしないよね？ 学園を卒業して大人になって、お互い就職したりしてもさ。ずっと一緒にいてよね？」

【悠】

「あんたの事、本当に大好きなんだから。約束して？ ね？」

【悠】

「ん、んへへ♪ うん、ありがと♪ ほんと好き♪ 大好き♪」

【悠】

「……って、わ、わっ！ ご、ごめん！ 急に感極まって、何かしめっぽい事言っちゃって……ささ！ パスタ伸びちゃうし早く食べちゃおう！」

【悠】

「ご飯の後にもいっぱいやりたい事あるんだから♪ えへへ♪ 今日はとことんキャンプを楽しもうね♪」

【悠】

「焚火のパチパチって音、何でか分かんないけど聞
いてるだけですっごい落ち着くよね」

【悠】

「やっぱ暗闇の中だと本能的に明かりを求めちゃう
のかな……ほんと人間って不思議……」

【悠】

「はううう……いくら焚火の前だからってこれだけ
じゃさすがにまだ寒いか……ねえ、もっとこっち
寄って。そう、密着するの」

【悠】

「ん、腕も組んで、っと……はあゝ♪ えへへ♪
これすっごい好き♪」

【悠】

「あんたはどう？ こうやって身を寄せ合うの、好
き？ ……えへへ、だよね♪ 愛しの彼女がこん
なに近くで抱き着いてあげてるんだし当然か♪」

【悠】

「はああゝ……今日さ、久しぶりにあんたと人っ
きりでお出かけしてさ、綺麗な紅葉を見たり、テ
ントを張ったり、キャンプ飯に挑戦したり……そ
んで焚火の前で人っきりで身を寄せ合って…
…」

【悠】

「こんな雰囲気満点で充実したデートなんて初めて
だからさ、ちょっと……いや、かなりこの空気に
酔っちゃったみたいで……アタシ自身いつも以上
に積極的になってる自覚があるの……」

【悠】

「ずっと傍にいたい……いっぱいあんたに触れていたい……こうやってくっついて……顔を寄せて……ほら、ね？ こっち見て？」

【悠】

「ん、ちゅっ……ちゅっ……ぴちゅっ……ちゅっ、ちゅ……んっ、はあ……キス、しちやった……♪」

【悠】

「はああ……あうう……これヤバイ……ロマンチックすぎて顔、熱くなっちゃう」

【悠】

「もっとお♪ もっとキスしたい……ねえ、今度はあんたからキスして欲しい……ね、ほら……きてえ？ はむ♪ ん、ちゅっ……んぢゅ……ちゅう、んぢゅるっ……」

【悠】

「ちゅっ、ちゅっ……ん、はあ♪ 好き♪ しゅきい♪ ちゅぷっ、ちゅ……じゅる……はあんむっ、ちゅう、んちゅう……じゅっ、ちゅっ……」

【悠】

「ん、ぷはっ……はあ、あんたのキス、エッチすぎ……もうすっかりする気満々じゃん♪」

【悠】

「ふえ！？ いや、アタシもまあ、そのお……エッチ、したいけど……だ、だって！ ずっと我慢してたんだもん……キャンプでいっぱいあんたとラブラブエッチしたかったんだもん！」

【悠】

「あんただって今日まで我慢してくれてたんでしょ？　ならさ、遠慮なんかしないでいっぱい愛し合おう？　求めあおう？　ん……あむ♪
ちゅっ……ちゅぶっ……ちゅっ……れちゅっ……」

【悠】

「んちゅ、くちゅ……んんっ……れろっ、れろれろっ……くちゅ……んふっ……はあ……ちゅむっ……くちゅ……んちゅっ……ちゅっ……ちゅっ……」

【悠】

「ん……ちゅっ……ちゅ、ちゅ♪　はうう♪　外でのキス、これ気持ちよすぎ。クセになっちゃいそう♪」

【悠】

「ちゅ♪　んちゅ♪　ちゅ……はむう♪　ちゅ♪　れろれろ♪　ん、好き♪　大好きい♪　ちゅ♪　れろ♪　んちゅ♪　ちゅぶ、ちゅ、ちゅ♪」

【悠】

「めっちゃ好きい♪　んちゅ♪　ちゅ、キスする度に、あんたへの想いが溢れて、んん♪　止まんなくてえ♪　はむ♪　ちゅ♪　れろれろ♪　んちゅ、ちゅ、ん……ちゅ♪」

【悠】

「はあ、はあ♪　んもう我慢できないい♪　ねえ、そろそろキスだけじゃなくてさ……そのう、ね？」

【悠】

「セックス、しょ？ もう期待しすぎて、アタシのここ……んん、おまんこ、切なくなってるの……」

【悠】

「あんたも我慢の限界でしょ？ おちんちん、ズボンの中で膨らんでるの分かってるんだから♪」

【悠】

「アタシがあんたの事、いっっぱい気持ちよくしてあげるから、ね♪ テントに行こ？」

【悠】

「はあ、ん、あっ……はあ……ふう……やつぱり一つの寝袋に2人とか、めっちゃ窮屈だわ」

【悠】

「ん、でもお互い裸だし、こうやってくっついてないと風邪ひいちゃうかもしれないから……はあ、んむっ、もっとくっつくっか。ね？」

【悠】

「足と足を絡めて、おっぱいもむにゅゅって押し付けて……ん、んんっ……はあ……んっ……う、はふう……あはは、おっぱい押しつぶされて形変わっちゃいそう♪」

【悠】

「アタシとあんたの乳首、キスしちやってるし♪あ、やん♪ダメ……これ、擦れちゃってえ、んんっ！ やあ……乳首勃っちゃううう……」

【悠】

「ん、んんっ！ ちょ、ほんとダメだって……！これ以上は、んんっ！ やあっ！ 感じすぎちゃうか、らあ……！ はあ、ん、うう……ひゃんっ！？」

【悠】

「はあ、はあ……ん、やつ、はああ……乳首だけじゃなくて足の先から太もも……おへそにおっぱい、それと……おまんことおちんちん……ううん、おちんちんじゃなくなつて……おちんぽ……♪」

【悠】

「うう……全部くつついちゃって……んっ、こくっ、はあ、はあ、ふうう……ヤバイこれ……このまま二つに溶けちゃいそっ♪」

【悠】

「すごい……これ、ほんと凄い……マジで興奮が止まんない……あんたが大好きって気持ち溢れて溢れて……あうう♪」

【悠】

「好き、スキスキ、大好き……ん、ちゅっ……ちゅ、ちゅっ……ちゅ……ぷちゅ……ちゅっ、ちゅぷっ♪」

【悠】

「はふう♪ 耳にキスしちゃった♪ えへへ♪ 耳真っ赤にしちゃって♪ これ、気に入ってくれたんだ……なら、もっとキスしてあげる♪」

【悠】

「ん……ちゅ♪ ちゅっ、ちゅ、んちゅ……ちゅぷっ……ん、ん……ちゅっ♪ ふううう……っ♪」

【悠】

「キスだけじゃなくて……ん、あむっ……んむっ、ちゅ♪ ろう？ ん、ちゅ♪ 耳たぶはむはむ……ん、あむっ、はむはむ……んん、んむっ……ちゅぷっ♪」

【悠】

「おっぱいとおまんこ押し付けながらペロペロもしてあげる……んちゅ、れろっ……れろれろ……んちゅっ、ちゅぷっ……れるっ、れりゅれりゅ……じゅぷっ、ちゅぷっ♪」

【悠】

「ふふ♪ あんたの耳、アタシの涎でテカテカして
エッチになって♪ えへへ♪ いいよ？ アタシ
のお口、エッチな舌……堪能して♪」

【悠】

「んっ、くちゅっ……ちゅうっ、じゅるっ、ちゅっ
……んちゅっ……れろっ……れろれろっ……
んっ、ちゅっ……ちゅぱっ……んっ……れろっ
……くちゅ……」

【悠】

「ちゅっ……ちゅぱっ……ふううー……好き……
ちゅっ……んっ、しゅきい……んちゅっ……れ
ろおっ……れろれろ……れろ……ちゅっ、ちゅ
るっ、れろれろ……」

【悠】

「んっちゅっ♪ ちゅっ……ちゅぷっ……ぴ
ちゅっ、くちゅっ……ちゅっ、れろ……れろれろ
……ちゅぷっ、くちゅっ♪」

【悠】

「ん、ん……… ぷはっ！ はあ、はあ……ふう
っ、これすっ」いい♪ 耳からあんたを犯し
てるみたいで興奮しちゃう♪ もっと舐めさせて
♪」

【悠】

「んぶっ！ じゅぷっ！ じゅりゅりゅっ………
ぴちゅ、くちゅ……… んんっ、はあ、んっ……
はあ……んちゅ……ぐちゅ、ぴちゅ……ふああ……
……じゅるっ……れろれろ………」

【悠】

「ぴちゆくちゅ……んん……！　じゅぶぶつ……！
　　ぴちゆくちゅ……！　ふふつ、れろ……！　ぴ
　　ちゅ……！　れろつ……じゅりゅつ……」

【悠】

「ちゅぶつ……！　じゆるじゆる……！　れろつ！
　　ぐちよ、じゅぶつ……！　　ぴちゅ……！　　れろ
　　れろ……！　　ぴちゅ……！　　じゅりゅつ……」

【悠】

「んっ！　ちゅぶつ、ちゅううつ、れろれろつ、れ
　　ろれろれろ……ちゅつ、んちゅ♪　ちゅ、んん
　　ちゅ♪　ぷはっ……はあ、はあ♪」

【悠】

「はううう♪　これヤバイ……一方的にあんたを可
　　愛がれるなんて……えへへ、これめっちゃ好き♪
　　ハマっちゃうう♪　耳舐め最高だわ♪」

【悠】

「にひひ♪　おちんぽも、大きくなって、すっごい
　　勢いでおまんこ押し上げてるの分かつちゃう♪」

【悠】

「うん、いいよ？　アタシの耳舐めでもっと興奮し
　　て？　セックスする為におちんぽ大きくして？」

【悠】

「アタシも、おまんこ沢山濡らして、おちんぽを迎
　　える準備しておくから……♪」

【悠】

「あゝゝむっ♪　んっ、ちゅっ……ちゅぶつ……
　　はあむ、れろ……ちゅっ……ちゅぶくちゅっ……
　　ちゅっ、れろ……れろれろ……ちゅっ、はむっ…
　　…ちゅっ、ちゅっ……はぶちゅっ……」

【悠】

「んっ、くちゅっ……ちゅうっ、じゅるっ、ちゅっ
……んちゅっ……好き、しゅきい♪……れろっ
……れろれろっ……ん、ちゅっ……ちゅぱっ
……んっ……れろっ……ちゅ……れりゅれりゅ…
…ちゅぶっ、んちゅ♪」

【悠】

「ん……ちゅっ……ちゅぶっ、んちゅっ♪れ
ろ、ちゅりゅ……れろれろ……れ、んちゅっ、
ちゅぶっ……れろれろろ……ちゅううう…
…んちゅぶっ……」

【悠】

「ぶはっ、はぁ……ちよっと激しくしすぎちゃっ
たかな……まあ、あんたも気持ちよさそうだし別
にいつか♪んじゃ、今度は反対のお耳もいっぱ
いペロペロしてあげるね♪」

【悠】

「ふううううううう♪ あはは♪ ビクって体跳
ねてる♪ 急に息吹きかけられてビックリした？
あはは♪ 面白い♪」

【悠】

「やっぱ耳が敏感なんだ♪ ならもつと……
ふううう、ふううううう、ふううううううう
う♪」

【悠】

「そしてこのまま……れろろ♪ んちゅっ……
ちゅぶっ、れろっ、れろれろ……んちゅっ、
ちゅっ、ちゅぶっ……はぶくちゅっ……」

【悠】

「んっ、んん♪ 好きい♪ しゅきい♪ ちゅっ、ちゅりゅっ……れるれる……はぶっ、んちゅ……じゅるっ……れろれる、ちゅっ、んちゅ♪」

【悠】

「れろ……んんっ……れろれる……ちゅむっ……くちゅ……んん……ちゅぶっくちゅ……んっ……ちゅぶっ……くちゅ……ちゅぶっ……くちゅ……」

【悠】

「んん……くちゅちゅむっ……んっ……ふぶっ……もっろ……耳のおふまれ……いれてあげりゅん、じゅるっ♪」

【悠】

「んぶっ、じゅるじゅるっ……ぴちゅ、くちゅ………んんっ！ はああ……ちゅっ……れるっ………れろれるろれるっ……んっ……おちんぽおつきくしてえ♪ んちゅ♪ びちゅっ……じゅるっ、くちゅ、ぴちゅ………もっろ………じゅるっ……れろ……れろれるっ」

【悠】

「んっ……ちゅっ……れろれるっ……はあああむ………じゅりゅじゅりゅっ、ちゅうううっ……んっ………もっろアタシの舌で感じて？ 気持ちよくなっれえ♪ はああんっ……ちゅっ、じゅるじゅるっ」

【悠】

「ん、ちゅ……！　ちゅぶっ、れるっ、んんっ！
くちゅっ、ちゅぶっ、じゅぶぶっ……！　れろれ
ろ……！　じゅりゅりゅ、じゅぶぶぶぶっ、
ちゅっ、ちゅうううううううううううう　ちゅ
ぶっ♪」

【悠】

「はふうふう……ヤバイ……おまんこおもらしして
きちゃった……んあ、やっ……とろとろ垂れて……
……うう、おちんぽにかかっている……」

【悠】

「これダメ……寝袋の中が蒸れて……おまんこの匂
いでいっぱい……すんすん……ダメえ……エッチ
な気持ちを抑えらんない……♪」

【悠】

「すんすんっ……はあ……この香りを嗅ぐだけで
おまんこがくぱあって開いて……お汁止まんない
……ううう、はあ……」

【悠】

「ねえ、あんたもおちんぽこんなに大きくしてるん
だもん。我慢、できないよね？」

【悠】

「いいよ？　このまま全身抱き合いながらエッチし
て？　汗とエッチなお汁に塗れた、ムレムレでド
スケベなエッチ、いっぱいしょ？」

【悠】

「ん、ほら、おちんぽこっち……ん、やん♪　そこ
ちがうう……そこ、おしっここの穴だからあ……
ん、んん、もうちよっと下……あ、うん、そこ……
……もういっぱい濡れてるから、そのまま入れ
て？」

【悠】「あっ、やつ！ ああっ！ ひやあああああ
ああ……！」

【悠】「あっ、んあっ、あっ、ひやうう！ や、ダ、ダメ
……気持ちよすぎ……！ おちんぽ、おまんこに
ぬるって入ってきて、子宮の奥まできてえ……♪
はあ、はあ……ん♪ ひやうう……♪ 入れ
ただけで軽くイっちゃった……おまんこ、ぴくぴ
く痙攣してるう……♪」

【悠】「アタシの膣中、きゅきゅうううっておちんぽに吸
い付いて、おちんぽ欲しがってるのがバレちゃう
……やあ……これ恥ずかしくて死んじやいそう……
…」

【悠】「あっ、ちょっ、ん、ダ、ダメッ！ まだ気持ちい
いの収まってないから……これ以上おちんぽ大き
くされちゃうとほんとにダメになっちゃうからあ
……♪」

【悠】「ひやわ！？ お尻に手、そんな、力、強っ！ ん
やつ！ ひやうんっ！ ん、うう……こ、これ、
もしかしておまんこ押さえつけてセックスする気
なの？ アタシのおまんこ逃がさないつもりな
の？」

【悠】「ううん、別に嫌とかじゃなくて、むしろ逆……そ
れだけアタシの事強く求めてくれてるって思うと
……嬉しくなっちゃう♪」

【悠】

「ね♪ このままいっぱいセックスして♪ おちんぽパンパンしておまんこ気持ちよくしてえ♪」

【悠】

「んあああ！ あ、あ、あっ、ああっ！ んっ、やっ！ パンパンっておちんぽお♪ 届いてえ……んああ！ アタシの奥うう！ 子宮まできてるのお……♪」

【悠】

「寝袋の中で、んあっ！ あ、あああ！ こんな腰振っちゃ……！ ん、あっ、やあ！ 小刻みにパンパンパンパンってえ！ らっ、らめっ！ おまんこらめえ！」

【悠】

「んほおお♪ んん！ あああ！ う、やっ！ あ、あ、あ、あああ！ んやっ！ ひ、ひい！ あ、ああ……あっっ……！！??」

【悠】

「はひい！ んん！ やあ！ これ、イっちゃうう！ おまんこすぐイっちゃうう！ イ、イク！ イクイク！ イっくうううううううううう！！」

【悠】

「ひゃああああ！ やだっ！ おまんこ出てる！ おまんこ汁もらしちやってるのお！ んああ！ あっ、あ、ああ……やあ……ここお、寝袋の中なのにい……お潮止まんないいい……！！」

【悠】

「やつ、あつ、ああつ！　ちょ、ちょっとお！　おまんこおもらしてるのにそんな！　あ、やあ！　パンパンダメツ！　いやっ！　はっ！　ひうっ！？」

【悠】

「こ、これ、ほんと無理……頭おかしくなる……どこかイっちゃいそうになるからあ……あ、やつ！　ひやうっ！」

【悠】

「んあっ！　あ、あ、あ、あうう！　ね、ねえ、キ、キスう……キスしてえ……♪　アタシがトんじやわないように、エッチなキスで繋ぎとめてえ……♪」

【悠】

「んぶうう！　んんっ、ちゅっ……ちゅ……ちゅぷっ……はむっ、れろっ……くちゅちゅぷっ……んふっ……ちゅぷっ……れろれろ……ちゅぷっ！」

【悠】

「もっろ……もっろしてえ……はあむっ……くちゅちゅむっ……んんっ……くちゅ……んふっ……れろ……ちゅぷっ……んっ……ちゅっ……れろれろ……ちゅうう……！」

【悠】

「んんっ！　ぷはっ！　あっ、あんっ！　もっ、もっと強くう！　おちんぽでいっぱい突いてえ！　もっと激しくおまんこ求めてえ！」

【悠】

「んちゅっ！　ちゅ……ちゅっ……あむっ、れるっ
……れるろ……ちゅぶっ、くちゅ、ぴちゅっ、
……ちゅ、ちゅっ！」

【悠】

「ん、ちゅっ♪　ちゅぶっ……ほ、ほらあ……舌……
……いっふあいちゅううってしてあげるからあ……
んん♪　あむっ！」

【悠】

「ん、ぢゅ！　ちゅぶっ！　ん、ぢゆるるうつ、
ちゅうう、ちゅ♪　はぶっ……んっ、ちゅ、ちゅ
ぴゅ……ちゅうう……もっろ、れるろしゆる
のお……はぶっ、れるれる、じゅぶっ、じゅ
るっ、じゅりゅりゅ……んちゅっ……じゅぶっ！
じゆるるるうつ！」

【悠】

「んぶっ！　んっ、くっ、くっ、くっ……ん
ぶっ！　ぶはあ……はあ……んんっ、えへへ♪
よだれ、おいひい……♪　ん、あっ、あん♪」

【悠】

「やつ、はあ、んひゃっ！？　あ、あ、あ、ああ！
んちゅ♪　ちゅ……れるろ♪　ぶはっ！
はあ、はあ……♪　んん♪　口も、おまんこも……
♪　あんたと繋がってるとこ全部気持ちいい♪
好きいい♪　おちんぽ大好きになってるのお♪」

【悠】

「あっ、あんたを気持ちよくさせてあげられるのは、アタシだけ……アタシのおまんこだけなんだからあ！ んあっ！ ほ、ほら！ こっち見てえ？ 見つめ合いながらおちんぽびゅっぴゅしてええ……！」

【悠】

「あっ！ やっ！？ あ！ ひやううっ！？ ちよっ！ またペース上がって！ おちんぽパンパンっ……しゅーいい♪ あっ、あっ、んあっ！ ああん♪ いっぱい興奮してくれるの、嬉しい♪ おまんこ氣に入ってくれて嬉しいのお♪」

【悠】

「はあ、あ、ああっ！ ん、んん……いいよ……♪ もっとおちんぽパンパンしてえ……アタシのおまんこ孕ませちゃうくらい、思いつきりおまんこ虐めてえ♪」

【悠】

「あっ、んひゃっ！ くあ……あ、あ、あああああっ！ ううううううう！ んひゃっ！ あ、う、うう！ んみゅううううう……！」

【悠】

「や、ヤバイいい！ これヤバイってええ……♪ くああああっ！ おまんこ、子宮コンコンってえ！ あ、あ、赤ちゃんのお部屋あいちゃうう！ おちんぽ迎え入れちゃううう……！」

【悠】

「ひやううううう！！　んあああ！　ああっ、ひやっ、やっ！　んっ！　ひやあああ！！　おちんぽ激しい！！　おちんぽ気持ちいい！　おちんぽ好き好き！　大好きなおお！！」

【悠】

「んにやあっ！？　はっ、はうう！　……んあっ！　はあ、はあ……ご、ごめん。ちよつと体勢崩れちゃった……って、はううっ！　やっ！　あ、ああっ！　ん、ちよっ！　そんな、体ぎゅってしながら腰ふっちゃ……やあっ！」

【悠】

「んああ！　あ、あ、んあっ！　ちよっ！　ちよつとまっ！　だ、だめえ！　これ身動き取れない、ってえ！　やっ、お、おまんこ、好き勝手え！　んあっ！　ひやっ！　ん、んんっ！　んああああっ！　だ、だめえええ！　オナホみたいになれちゃあ！」

【悠】

「あっ！　ひやっ！　あ、あっ、ああっ！　ひううっ！　んああ！　ダメっ、なのにい……！　おまんこイイ！　気持ちいいのお！　オナホまんこいっぱい使ってえ！　おまんこおかしくさせてえ！」

【悠】

「んあああああっ！　ア、アタシのおっぱいもおまんこも！　全部あんなだけのものなんだからあ！　あんたを気持ちよくする為に大きく育ったんだからあ！」

【悠】

「おまんこに入れるおちんぽもあんただけなのお！
あんただけがアタシのおまんこの形を変えられ
るんのおお！」

【悠】

「はあ、んん！ あ、あ、ああっ！ い、一生あん
た以外に見せるつもりないし！ 触らせるつもり
もないし！ アタシを好きにできるのはあんただ
け！ アンタだけの悠ちゃんだからあ！」

【悠】

「あうう、だからお願いい！ このままおまんこに
膣中出ししてえ！ おちんぽから精液ぴゅっぴゅ
して、このおまんこがあんたの物っていう証を刻
み込んでえ！！！」

【悠】

「あっ！ んやっ！ ちよっ！ ひやっ！ あ、
あ、あ、ああ！ んみゅうう！ あ、やああ！！
も、もう我慢できない！ ほんとイク！ イッ
ちやうっ！ おまんこイっちゃううううう！」

【悠】

「あ、んああっ、はあ、ふっ、はあ、んっ！ おま
んこぎゅってしめてあげるから！ トロトロおま
んこきゅきゅうううってしてあげるから！ おち
んぽイツて！ おちんぽぴゅぴゅくくって全部出
して！！ アタシのおまんこ孕ませてえ！！！」

【悠】

「あ、あっ！ ああっ！ 本当にイク！ イクイク
イクイク！ イックうううううううううう
うう！！！」

【悠】「あっ！ ひゃあああああああああああ
あああー！」

【悠】「お、おおおお♪ おまんこお……♪ あ、あ、
あ、ああ……！ イグ！ イグ……あ、ああ……
…イっでりゆうう……精液、おまんこの奥でびゅ
びゅゝれて……しゅごい勢いい……」

【悠】「はあ、はあ……もつと出してえ……♪ 金玉空に
なるまでえ……♪ おまんこ真っ白になるまで
いっぱいおちんぽミルクらしてえ……♪」

【悠】「おまんこでも搾ってあげるからあ……♪ ほらあ
♪ ぴゅっぴゅ♪ ぴゅっぴゅ♪ ぴゅっぴゅ♪
ぴゅっぴゅゝゝ♪」

【悠】「あ、きやんっ！ えへへ♪ やっぱりまだ残って
た……って、ちよっ、多すぎて精液零れちゃって
……うう、どんだけ凶悪ちんぽなのよお……し
かも、まだ大きいままだし……」

【悠】「ん、いいよ。まだまだこんなもんじゃ満足できな
いって分かってたし、アタシももっとも……
それこそ気絶しておかしくなるくらいセックスし
たいし……♪」

【悠】「じゃゝあ♪ 夜が明けるまで密着セックス、しよ
♪ おちんぽミルクで溺れちゃうくらい愛して♪
んっ、ちゅ♪」

【悠】

「ん、んん……ああ……はあ、はあ……んあっ……
はう、やあ……ひっ、ひう……！ はひい……
や、あ、んあ……あんっ……はあ、ふうう……
あっ……もう、あしやになってりゅ……」

【悠】

「んああ……朝までせつくしゅなんでえ……こ、こ
んにゃの初めてええ……おまんこぱくぱくし
てえ、開きっぱなしでえ……あううう……とぶと
ぶ精液……あんっ……ぶぴゅって下品な音、
ううう、恥ずかしい……」

【悠】

「はあ、はあ……はあああ……んっ、はふうう……
流石にここまでエッチすればおちんぽ小さくなっ
てるね……本当、絶倫すぎい……あんたってばア
タシのおまんこ好きすぎでしょ……」

【悠】

「ん、いいよ別に……前にも言ったけどこれだけ夢
中になってくれるのは嬉しいから……それにあん
たに犯されるの、ありえないくらい気持ちよかつ
たし……♪」

【悠】

「え！？ いや、別にアタシ≡じゃないしっ！ た
だあんたとのセックスが好きなだけだからあ！」

【悠】

「って、はあくんもう、突っ込むのも億劫になっ
てきたわ……一睡もしてないのに空も白んできて
るし……」

【悠】

「ねえ、せっかくだしき、このまま抱き合いながら寝ちゃおつか。キャンプデート最後の思い出ってことで、特別におちんぽおまんこに入れたまま添い寝してあげる♪」

【悠】

「ん？ あはは♪ そうだね。アタシもあんたときキャンプに来てすっごく良かった♪ エッチもいっぱい出来て、こんな幸せなデート他にないつてくらい満足できたわ♪」

【悠】

「また今度さ、～人でお休みとってどっか旅行しに行こ♪ お互い仕事ばっかで行ったことない場所山ほどあるしさ。アタシとあんただけの思い出作り。きっと楽しくなると思うな」

【悠】

「だからね？ これから先も、絶対アタシの傍から離れないでよね。あんたはアタシのモノで、アタシはあんたのモノ何だから」

【悠】

「ずっと、ずっ～と！ 一生愛してくれなきゃ許さないんだから！ 約束だからね♪」
